

コメントリスト
(ALPSクロスフローフィルタ国産品導入に伴う実施計画変更について)

No.	指摘元	指摘事項	反映要否（否の場合はその根拠）	反映ページ番号
1	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回補足説明資料 P.1 国産品CFFの申請範囲および炭酸塩・鉄共沈CFFの外径を図示すること。	P.1へ反映。	補足説明P.1
2	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回補足説明資料 P.8,9, 20,21 耐圧漏えい確認 確認内容 確認圧力に耐えていることとあるが何に基づいて確認するのか。	海外品はCODAP2005等に、国産品は設計・建設規格に基づく。実施計画の記載としては、海外品は従前通りCODAP2005等と表記し、国産品は他の設備の記載との整合を鑑み、記載しない考えである。	まとめ資料 8.1-3以降 補足説明 P.9,10,23,24
3	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回補足説明資料 P.14,22 溶接作業検査の記載について設計・建設規格と適合するよう見直すこと。	記載の見直しを実施。	まとめ資料 8.1-6以降 補足説明 P.12
4	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回補足説明資料 P.28,29 P.32にて国産品CFFと海外品CFFで仕様が「同一」と記載があるが、P.33ではエレメント装荷他が「異なる」と記載がある。	P.32の記載を削除。	まとめ資料 8.1-13 補足説明 P.32
5	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回補足説明資料 P.28 「念のため」の記載について要否を検討すること。	記載を削除。	まとめ資料 8.1-13 補足説明 P.32
6	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回補足説明資料 P.29 国産CFFのエレメント、タイロッド、上下プレートが写真のどれに当たるか図示すること。	各部位について図示を実施。	まとめ資料 2.14.1-5 補足説明P.33
7	規制庁殿 7/26第4回目面談	クロスフローフィルタに国産品と海外品があることが分かるよう、実施計画に示すこと。	各実施計画の確認事項に関する添付資料にて、国産品と海外品があることが分かるよう記載を追記。	まとめ資料 8.1-3以降 補足説明P.8以降
8	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料 1.1-12 系統概略図の鉄共沈CFFに記載がある赤枠は今回申請外のものであるため削除すること。	鉄共沈CFFの赤枠を削除。	まとめ資料 1.1-12
9	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料2.14.1-11以降 ①国産品CFFの試験における差圧について海外品CFF(ALPS実機)の運転実績を踏まえて考察すること。 ②耐久性試験で確認すべき逆洗回数5万回で問題ないのか。 ③海外品より国産品エレメントのほうが穴径が小さくなることで逆洗回数が増えないか。	①考察を行い、国産品CFFと海外品CFFは同程度の圧力損失であると判断する。 ②5万回は約1年分の運転に相当しており、CFFの開放点検の頻度としている3年より短い値であるが、設備点検や待機運用にて処理運転を行わない期間があるため、逆洗回数5万回にて耐久性を確認することは妥当であると考えている。 ③実機では数日間の運転で差圧が上昇しており、都度薬液による洗浄を実施している。この傾向は試験で確認されなかったが、国産品CFFに使用するエレメントは材質、孔径が同一であることから同程度の頻度の系統洗浄が必要になると推定している。	まとめ資料2.14.1-12以降 補足説明P.38以降
10	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料2.14.2-13 ①配管曲がり部の固有振動数評価において集中荷重に関する考え方を記載すること。 ②水平2方向組み合わせの評価に関して「静的震度」を加えて示すこと。 ③設計震度「0.36」の根拠を説明すること。	まとめ資料へ反映を実施。	まとめ資料2.14.2-13
11	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料2.14.2-14 ・配管応力評価についてCFFの応力評価も示すこと。	まとめ資料へ反映を実施。	まとめ資料2.14.2-14
12	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料2.14.2-15 Uボルトの許容応力に関して算出過程を示すこと。	まとめ資料へ反映を実施。	まとめ資料2.14.2-15
13	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料 2.14.5-5~8 ①塩化物イオン・温度に対するSUS腐食評価に関する記述の出典を確認すること。 ②犠牲陽極による腐食対策について記載すること。 ③まとめ資料への実施計画引用について、申請範囲に関わる記載を抜粋して示すこと。	①化学工学協会編：“多管式ステンレス鋼熱交換器の応力腐食割れ,” 化学工業社 (1984). (実施計画 II-2-16-1-添4-10より) ②犠牲陽極について実施計画記載文より引用、まとめ資料へ反映。 ③記載の見直しを実施。	まとめ資料2.14.5-5~8
14	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料2.14.5-11 CFF腐食への対策について、漏えいの早期検知等に関する記載を追加すること。	記載の追加を実施。	まとめ資料2.14.5-13
15	規制庁殿 7/26第4回目面談	前回まとめ資料8.1-11~12 ・別紙-1と2を統合すること。 ・タイトルには「検査」を含めること。 ・使用前検査において「外観確認」が抜けている。 ・使用前検査受検ではCFF6基まとめて取替えることを記載すること。	タイトルおよび外観確認の追記修正と別紙の統合を実施。	まとめ資料8.1-13

No.	指摘元	指摘事項	反映要否（否の場合はその根拠）	反映ページ番号
16	規制庁殿 8/10第5回目面談	<p>前回補足説明資料P.7,20</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本仕様の機器材料表記について、海外品の場合の材料表記を確認しておくこと 既設ALPSの前段CFFについて主要仕様と確認事項の記載程度に相違があることから見直しを検討すること。 	<p>国内品と海外品の材料名をそれぞれ反映。</p> <p>前段CFFについては既認可通りの表記とする。</p>	補足説明P.7,21
17	規制庁殿 8/10第5回目面談	<p>前回補足説明資料P.39</p> <p>定格流量時の圧力損失評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 実機と試験で圧力損失に差があるが影響はどうか、記載すること。 	まとめ資料へ反映を実施。	補足説明P.38, 39 まとめ資料2.14.1-14以降
18	規制庁殿 8/10第5回目面談	<p>前回補足説明資料P.42</p> <p>海外品より国産品エレメントのまうが穴径が小さくなることで逆洗回数が増えないか。</p>	国産品CFF、海外品CFFの逆洗頻度は同一とする予定で、実機の場合ではBPPによる逆洗しながら運転を行っていても数日運転で差圧が上昇しており、その際はBPPの逆洗頻度を上げるのではなく、薬液洗浄を実施しており差圧を解消している。上記説明資料へ記載反映を実施。	補足説明P.41 まとめ資料2.14.1-11以降
19	規制庁殿 8/10第5回目面談	<p>前回まとめ資料2.14.2-12以降</p> <p>耐震評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 水平2方向組み合わせに関する考えの記載見直しすること。 評価した配管の設置建屋標高について記載すること。 設計震度「a」の記号が他と重複しているため別記号とすること。 表2.14.2-3について配管かCFFかを判別できるよう追記すること。 	まとめ資料へ反映を実施。	まとめ資料2.14.2-13以降
20	規制庁殿 8/10第5回目面談	<p>前回まとめ資料2.14.5-3以降</p> <ul style="list-style-type: none"> CFFの耐食性に関する記述について内容を整理すること。 	まとめ資料へ反映を実施。	まとめ資料2.14.5-3以降
21	規制庁殿 8/10第5回目面談	<p>前回まとめ資料8.1-12</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査受検の考え方について、設備の仕様や性能面で各1系列での受検で良いとするのであれば、その考え方を明確にすること。 	まとめ資料へ反映を実施。	まとめ資料8.1-13